

## アルコールとわたし

ながのとしお

今ほくが住んでいるのは、総武線の津田沼駅で新京成線に乗り換えて二つめの薬園台という駅が最寄りで、そこから歩いて二十分ほどのところにある軽量鉄骨のワンルームアパートの一室である。

ぼくは奥さんからインターネット中毒と言われるくらいのネット好きで、うちでネット遊びをやっているという切りがなくなってしまうようなところがあるので、今はうちにネット用の回線は引いていない。けれど使う用事があるときにわざわざネットカフェにまで行くというのもあまり嬉しくないの、公衆無線LANの契約をしていて、駅近くのマクドナルドまで行くとこれが使える。マクドナルドは昼前は空いているので紅茶一杯で気持ちよくネット遊びが出来るわけだ。そうして一時間ほどのネット遊びを楽しんだあと、マクドナルドの裏手にある千葉生協のスーパーについてフラフラと入っていくことになる。

ところでみなさんは缶酎ハイというものを飲むことがあるだろうか。たいていのメーカーが出している缶酎ハイはほくにとって甘すぎても飲めたものじゃない。一部それほど甘くない銘柄もあるのだが、それとて香料や酸味がきつくておいしいとは思えない。そんな中で一つだけこれはいけると思える缶酎ハイがある。キリンの本絞りである。焼酎と果汁と炭酸しか使っていないという秀れもので、二種類あるうちレモンのほうは少し鼻につくのだが、グレープフルーツのほうは缶のアルコール飲料としてはこれ以上のものは望めないと思うくらいよく出来ている。だが悲しいことにこの缶酎ハイを置いている店は少ない。

はたしてこれが、どの程度問題があることなのかは少し判断に迷うところのだが、とにかくいささかアルコールに依存した日々を送っている。そこでお暇な方には少々お付き合いたいだいて、どのくらい問題なのかについて一緒に考えていただけたらと思うのだ。

その数少ない店の一つがマクドナルド裏手の生協なのである。

ぼくは、そろそろ半世紀近くになる人生の中で、いわゆるフルタイムの仕事をしたことが二年弱しかない。バイトで週五日働いていたのを併せても三年ほどにしかならない。というのも、とにかく働くのが嫌いなのだ。週五日も働いていたら、それだけで疲れ果てて自分の時間がなくなってしまう。自分の時間はただらのたのたのた過ごせばいいので、世間の人様ほど金を使う必要はない。暮らすのに最低限の金があればいい。それでここ五年ほどは週二日くらいしか働いていない。だから今のぼくは金はないけど閑だけはたっぷりあるという身分なのである。

閑がある人間がアルコール好きだとどうなるか。

定年型アルコール依存症という言葉があるくらいで、小人閑居して不善をなす、会社をやめたお父さんはするべきことがなくなって毎日が休日の気分、たまの休日にお昼のビールくらいなら問題はないけれど、それがいつの間にか毎日になって、気がついたら毎朝目覚めると飲まずにいられない体になっていた……、とこうなれば、なかなか立派な依存症が一丁あがりというわけです。

そこでぼくの場合なのですが、自分の部屋にいる限りはわざわざ昼間から酒を飲もうという気分にはなることはない。逆に言えば外に出かけたときがいけない。数年前に日本を一年離れて以来とんと日本の空気が合わなくなってしまうわたしは、外に出歩くと簡単に人当た

りがしてくたびれてしまい、じゃあここで一息と、ついコンビニなどでアルコールを仕入れて飲んでしまったりするのだからこれは少し危ない領域。

というわけで。

週に五日も休みがある人間なもので、そのうち三日くらいは朝からマクドナルドでネット遊びをして、それが終わるとふらふらとその裏手の生協に入っっていつて缶酎ハイとパンを買う。そうして近所の公園に行っってベンチに腰をおろし昼前からお楽しみという塩梅で、それだけで済めばいいのだが、一旦酔つと調子が良くなって帰り道、うちの近所のスーパーでももう一缶などということになり、結構切りがない世界に入り込んでしまったりしがちな暮らしを送っている次第でして……。

節度を保って普通にアルコールと付き合っている人から見れば、ちょっと大丈夫ですか、と言われても文句は言えない状況で、そうは言っても朝起きたらまず一杯飲まない気がすまないような連続飲酒状態ではないし、一度飲み始めたら泥酔するまで飲み続けたいといられないというほどでもない、つまり誰が見ても立派な依存症というところまでは至らない中途半端な状態なわけです。

まあしかし、こんな状態が波はあってもかれこれ五年は続いているし、胃腸の調子は始終悪いという体のあちこちにガタがきてる観もあり、だからやっぱりちょっとなんとかしたほうがいいよなと思ってるのに、

結局は何ともしないまま日々を過ごしてゐるわけなので、はい、そうです、また軽度ではあるにしてもお医者にかかればアルコール依存症と診断されるでしょう、きっと。そのくらいの自覚はあるんです。

それにしてもしつの間になんかことになってしまったらどうと振り返してみると、やっぱりあのとき以来かなあとか、待てよ、そついえばこんなこともあつたなとか、いろいろと節目となる出来事が思い起こされるわけだけど、遡っていくと結局飲み始めたころからその兆しはあつたよなという気がしてきて、けれどその段階から一段一段と進んでいくとき、一つ一つのことはいささか積り重ねなわけだ、どこまでは大丈夫でどこからが危険ということは一概に言えないし、まあ、酒だけじゃなくてタバコでもギャンブルでも一緒だけど、何かでウサを晴らさざるをえない人は（つてウサを晴らさなくて済む人なんてそうそういないだろうから、ネガティブでのめり込みやすいもので、つてことになりましようか）自分が危ないことをしているかもしれないって意識を、ちゃんと持っていたほうがいいと思つたんですよ、そのあなた。

とまあ、そんなことやらんなことやらで、あなたがどんな問題を抱え、どんな人生を送っているかは知りませんが、人のことまでとやかく忠告めいたことを言うような義理ではないわけですけど、むしろこんな危うい状態でも人は生きていくのだなあ、くらいに受けとめて

もらえばそれで十分なのでして、ついでだから、ぼくが抱えている人生の宿題を書き留めておくことにすると、ぼくの中には、小さいころに十分無条件に自分という存在を受けとめて貰えなかつたという自覚が最近あつて、そこから発するこの世界に対する違和感というものがある、どうしても付きまとい、それを解消するためにアルコールに頼つてしまふという現状がある感じなんです。

そこでそれを否定もせず肯定もせず、今の自分はそんな状態なんだというのをただただ受けとめられるようになったらいいな、というのが今のぼくの考えで、だから反省して酒を減らすというような「普通」の対処をする気はとりあえずさらさらないんです。で、この文章は図書館で書いているんだけど、腹が経ってきたので持ってきた弁当をそろそろ食べるつもりで、そのときこれが運悪くというべきか、それとも運がよいというべきか、とにかくある種の巡り合わせで、この図書館の向かいのスーパーでも本絞りを売ってるわけですよ。だもんで、まだ三時前で日も高いのだけど、これから一缶買いに行つて、スーパーの前のベンチでお弁当を食べながら、神様に感謝の気持ちを捧げて一献飲ませていただくことにしたいとさういふわけなんです。そんなわたしはやっぱり深刻な問題を抱えているんでしょうか、それほどでもないでしょうか、ねえ、あなたどう思います？ えっ、そんなことは自分で考えるつて？ はい、確かにもっともなご意見でございます……。